

# 1

## 発達障害と愛着障害を 併せ持つこどもの支援の基本

発達障害と愛着障害を併せ持つというとらえ方は、第1章③で指摘したように、残念ながら、現状では、精神医学会の見解とは相容れないものです。しかし、こうした視点でとらえないと理解できない子どもたちが現場にたくさんいて、子どもとかわり、支援する人の大きな困り感となつていきます。また、このように発達の脆弱性と愛着の問題を併せ持つ場合、窃盗（クレプトマニア）や性的な問題等、大きな問題につながってしまうこともよくあります。そして、こうした視点で理解し支援することで、確実に子どもの様子が改善し、その後のかわりや支援もしやすくなるのです。

ここでは、発達障害と愛着障害を併せ持つ子どもへの基本的な支援の方向性について説明したいと思います。

## ★ADHDと愛着障害を併せ持つ場合の支援

ADHD（注意欠如多動性障害）は、行動の障害で、注意が持続しないこと（注意の分散）と、行動のコントロールができないこと（行動制御障害）が特徴です。そして、その支援をする際に、留意しなければならぬのは、次の三点です。

- ・ 振り返りが困難なため、「さっき、何をしたの？」という問いかけには答えられません。
- ・ してはいけないと思ってもそれをしないでおくことが苦手（抑制制御の困難）なため、「しちやだめだよ」という禁止は効果がありません。
- ・ 「これをしたら、あとでこれをしてもいいよ」というような後から与える報酬の話をするとうまくそれをしてしまいます（遅延報酬の嫌悪）。

ですから、まず、支援において意識しなければならないのは、望ましい行動をした後、すぐに評価・報酬を与えるという「即時強化」です。また、大きな単位の行動を小さな単位に区切ってスマールステップの支援をすると効果的です。この意識を持って愛着障害への適切な支援をすることで、同時にADHDへの支援になります。すなわち主導権をいつも意識して、キーパーソンと一緒に、ある小さい単位の行動をして、すぐに（即時強化）、感情のラベリング支援をすることです。行動強化や消去（無視する）等のADHDへの支援をしただけでは、愛着障害への支援が不十分なため、支援がうまくいかないのです。

## ★ SLDやIDと愛着障害を併せ持つ場合の支援

SLD（特異的学習障害）やID（知的障害）を併せ持つ場合は、知的機能として苦手な部分では、ちゃんとこどもに伝わるように伝え方の工夫を加味して、愛着障害への支援を行うことが基本です。

その際、感情のラベリング支援で結びつける、行動・認知・感情にそれぞれ、こどもが必ず気づくような「意識化支援」が必要です。例えば、声かけの工夫や身体接触等で、気づきの支援をします。また、合い言葉等の音声スイッチ、ポーズ等の身体スイッチで行動を始めたたり終了したりする支援（行動始発）をします。こどもの苦手を克服しようとするのではなく、こどもが持つ特異な力を利用するよう心がけることも大切です。

## ★ ASDと愛着障害を併せ持つ場合の支援

ASD（自閉症スペクトラム障害）と愛着障害を併せ持つ場合が、第1章<sup>③</sup>でも紹介したように、行動の問題が大きく、支援が困難となりやすいのです。

ASDは、社会的コミュニケーション障害と、行動・興味の限局性という特徴があります。愛着障害を併せ持つ場合、支援で留意しなければならない点は、次の三つの特徴です。

・対人認知、自己認知に困難があり、独特の理解をしているため、人間関係の支援で手こずりま

す。

・自分の感情も他者の感情もどちらの感情認知も苦手なため（メンタライジングの問題と指摘されます）、感情発達が未熟なことと愛着の問題とが相俟って、感情のコントロールが難しく、感情混乱が起きやすくなります。

・認知の偏りがあり、こだわりや知覚異常（あるものには過敏で、あるものには鈍感という知覚過敏と知覚鈍麻が同居）、常同行動等にとのような支援をしていくのが難しいです。

次項からは、さまざまな困難な問題を抱えてしまう、このタイプの子どもたちへの支援を四つの機能別に説明します。

### ★ ASDと愛着障害を併せ持つ場合の機能別支援…認知支援

まず、認知支援では、【①予定支援】【②生活構造化支援】があります。ASDのある子どもは、予定がわからなかったり変更になると不安になります。この予定不安への支援として、予定を必ず伝える「時間の居場所支援」をします。また、新しいことや場所に対する不安（新奇不安・環境不安）への支援として、必ず、そこにいていい居場所を確保する「物理的居場所支援」をします。その上で、一日の行動を構造化して、朝、登校した後などに、何をしてから何をするかという順番を固定します。

その際、後述する人間関係支援の【②役割付与支援】を組み合わせることは効果的です。例えば、学校での暴力行為が日常茶飯事だったある小学生に、登校後は必ず併設の幼稚園での幼児支

援をする「おにいちちゃん先生」という役割を与えました。その後、小学校のリソースルームで個別学習した後、通常学級に参加するという、役割付与した生活構造化を行いました。すると、小さい子の世話が大好きな本児は大変落ち着き、暴力行為はなくなりました。

【③予知・予告支援】は、こどもの物事に対する特異なとらえ方、認知に気づいて、「こんなふうに受け止めたんだよね」と伝えることで、自分の思いをわかってもらえたと思えるようになり、安心基地機能につながる支援です。

【④クールダウン支援】【⑤認知を逸らす支援】【⑥認知スコープ支援（認知を広げる支援）】は一連の支援ですので、まとめて説明します。ASDのあるこどもが何か不適切な行動を始めたとき、それを禁止・制止すると、余計にその行動をやめられなくしてしまいます。特定の行動をやめさせようとすることで、その特定の行動への焦点的認知、つまりこだわりを強化してしまうのです。さらにそれにコントロールできない感情混乱が加わって、その行動をやめられなくなります。

「それしちやダメと叱つちやダメ！」

これをこのタイプのこどもへの支援の合い言葉にさせていただきたいのです。では、どうすればいいのでしょうか。

結果的にその行動をやめさせるには、他のものに認知を逸らせればいいのです。棒を振り回していたら、「棒を振り回すのをやめなさい！」ではなく、「ほら、あそこに虫がいる！」などと他のものを指さして認知を逸らせば、結果的にその行動は収まりやすくなります。さまざまグッズを忍ばせておいて、「これ見て！」と取り出してもいいでしょう。「それはそうと、パンダ生ま

ASDと愛着障害を併せ持つ場合の機能別支援

認知支援	<p>【①予定支援】</p> <p>【②生活構造化支援】</p> <p>【③予知・予告支援】</p> <p>【④クールダウン支援】</p> <p>【⑤認知を逸らす支援】</p> <p>【⑥認知スコープ支援（認知を広げる支援）】</p>
感情支援	<p>【①禁止・叱責をしない】</p> <p>【②感情ラベリング支援】</p> <p>【③感情先取り支援】</p> <p>【④感情コントロール5ステップ支援】</p> <p>【⑤納得の儀式支援】</p>
行動支援	<p>【①先手行動支援】</p> <p>【②代替行動支援】</p> <p>【③行動スイッチ支援】</p> <p>【④これだけしよう支援】</p> <p>【⑤作業の居場所支援】</p> <p>【⑥微細運動・粗大運動ストレッチ】</p>
人間関係支援	<p>【①人間関係の居場所支援】</p> <p>【②役割付与支援】</p> <p>【③個別予習支援】</p> <p>【④橋渡し支援】</p> <p>【⑤褒める連携支援】</p>

れたね！ かわいいね〜」などと、その子が好きな話題に逸らすことも可能です。また、その場にいなかった人がやって来て（駆けつけて「やめなさい！」と制止するのではなく、「学級園のチューリップ咲いたよ。きれいだね〜」などと楽しそうに伝えることも逸らしにつながりやすいです。

固まるという行動にも、同様に認知の逸らしが効果的ですが、「どうしたの？」と問わないで、そっとしておくことも逸らしになります。「どうしたの？」と問えば問うほど、シャットアウトし

ているこころのシャッターが何枚にも増えてしまうのです。

クールダウンも、場所を変えることによって、認知の逸らしを生じやすくする支援です。その場にいると、どうしても感情混乱を引き起こした認知刺激から逃れられません。場所を変えることで、そうしたのが見えな